

## APTT 試薬「レボヘム APTT SLA」を用いた基礎的検討及び既存試薬との比較

©澁谷 博英<sup>1)</sup>、森 裕二<sup>1)</sup>、安部 寿枝<sup>1)</sup>、岩永 英明<sup>1)</sup>、椿 佳明<sup>1)</sup>、三枝 純也<sup>1)</sup>  
株式会社 京浜予防医学研究所<sup>1)</sup>

【はじめに】活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）は、内因系凝固因子と共通系凝固因子の働きを反映する血液凝固スクリーニング検査の一つである。未分画ヘパリン（抗凝固療法）のモニタリングや凝固因子インヒビター、ループスアンチコアグラント（LA）等の循環抗凝血素の検出など様々な目的で実施されている。今回我々は、新たに発売された合成リン脂質とエラグ酸を原料とした APTT キット レボヘム APTT SLA（シスメックス：以下、Rev）の基礎的検討及び既存試薬であるトロンボチェック APTT-SLA（シスメックス：以下、TC）、データファイ APTT ACTIN（シスメックス：以下、ACT）との比較検討を行った。

【試薬及び測定装置】 Rev、TC、ACT、コントロール血漿コアグトロール（シスメックス）を使用し、全自動血液凝固測定装置 CS-1600（シスメックス）を用いて測定した。

【方法及び結果】 Rev の基礎的検討として、同時再現性、日差再現性及び相関性、ロット間差の測定を行った。同時再現性では、2 試料（N=10）を用いて測定した結果、

Rev：（sec）CV0.3～0.4%であった。日差再現性では、2 試料を 5 日間連続測定し、Rev：（sec）CV0.2～0.3%であった。ロット間差では、3 ロットをコアグトロール（N=10）を用いて測定を行った結果、Rev：（sec）CV0.4～1.7%であった。Rev 及び TC、ACT との相関性の確認では、当施設に提出された患者血漿（N=100）を用いて測定を行った結果、Rev vs TC：（sec） $y=0.9931x-1.9042$  $r=0.9649$  であった。Rev vs ACT：（sec） $y=1.1474x-3.0153$  $r=0.9303$  であった。TC vs ACT：（sec） $y=1.2118x-7.6278$  $r=0.9547$  であった。

【まとめ】 Rev は、同時再現性、日差再現性共に良好な結果が得られた。又、既存試薬である TC、ACT との相関性の確認でも良好な結果であった。試薬のロット間差が小さい為、日常検査に有用な試薬であると思われる。

（連絡先 044-777-3254）